

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぼがっぼ」

自分たちで つくる明德

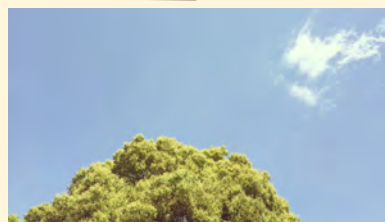
千葉明德短期大学は、「保育創造学科」という学科名を掲げています。しかし、私たちが学び合うこの場所で創造されていくものは、必ずしも保育だけではありません。

今、学生たちの間では、学友会を中心に、自らこの明德をより明德らしくしていこうという動きが活発になっています。本号では、「自分たちでつくる明德」をテーマに、生き生きと自分たちの学生生活を創造している学生たちの姿をお届けします。



特集 学生生活から (P.2-9)

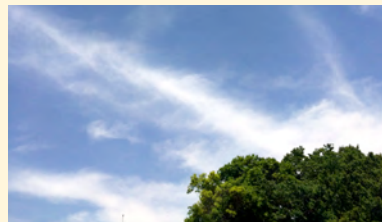
学友会 サークル活動紹介



1年生の5月 (P.10-11)

自分でつくる 積み重ねる

「あそびの便利帳」を活用していますか？



2年生の5月(P.12-16)

それぞれの創意工夫

「あそび技能演習」

学生ページ (P.17-18)

教員からのおすすめ (P.19)

総合保育創造組織紹介

「千葉明德短期大学附属幼稚園」
(P.20)

卒業生の今

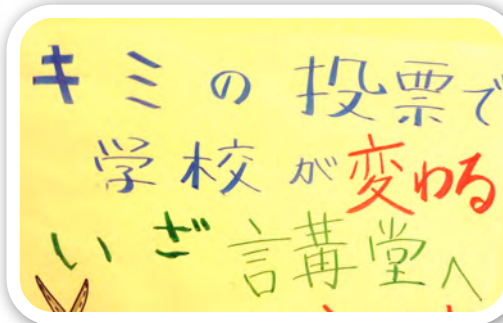
本田美乃さん & 中野望さん

(P.21)

!hot news! 今月の明德速報

(P.22-23)

特集 学生生活から



学友会

会長
今村 彩香 (2年)

副会長
井上 和幸 (2年)
豊田 真央 (1年)

書記
鈴木 利美 (2年)
宮本 花梨 (1年)

会計
新田 雅幸 (2年)
瀧口 友貴 (1年)
尾田 友紀穂 (1年)



明德の中心は、学生です。そして、学生生活をつかっていくのも、学生です。先月号でお伝えした通り、今年の学生たちは、「自分たちで明德をより良くしていきたい!」という思いを持って、エネルギッシュに活動しています。この特集では、学生生活の核となる「学友会」役員が決まった学友会選挙と、例年以上に活発に活動しているサークル活動について、学生の声を中心に紹介します。



学友会選挙

もりたかひろ
2年：森 誉太



今年度の学友会選挙で、選挙管理委員長を務めさせていただきました森です。

学友会選挙にご協力いただいた選挙管理委員の皆さん、投票いただいた在学生の皆さん、ありがとうございます。そして、学友会役員に選ばれた8名の方々、明德を大いに盛り上げて下さい。信任され選ばれたということで、多くの期待とともに不安もあるかと思います。学友会役員だけでは大変な時には、私たち学生も一緒になって明德をより明德らしく創造していけるよう協力していきたいと思いますので、ぜひ声を掛けて下さい。

実は今年度の選挙は前年度よりも早い時期の4月23日に行なわれました。入学後、すぐに学友会の立候補者募集についての話をされ、困惑した1年生も多いかと思います。選挙管理委員の中にも、1年生の立候補者はいるのだろうかという懸念があり、候補者募集期間、選挙日の延長も視野に入れ、選挙管理委員で議論を重ねました。

なぜ、例年より早く選挙を行なうことになったかと言うと、明德は学生が創っていく場所であると思うからです。そのためにも基盤となる“学友会”という組織が早く必要だと考えたのです。立候補者募集期間最終日、〆切時間になって候補者が揃ったときは安心しました。また顔合わせを行なって、全員の思いが本物であることを確認し、選挙を行なえたということは素晴らしいことだと思っています。

選挙管理委員長としての務めを私はどれくらい果たせたのかはわかりません。ただ一つ言えることは、選挙管理委員（各サークル長）、学生、全員の協力があったからこそできたことだと思います。ただ、学友会としてはここからがスタートだと思うので、ぜひ学生みんなで協力しながらやっていきましょう。

学友会会長として

いまむらさやか
2年：今村 彩香



「学友会」というと、生徒会というイメージを持つ人がいます。私は生徒会がどういう定義かわかりませんが、学友会は保育や人と関わることに興味・関心のある学生が、2年間の学生生活を充実させようと考え、活動する集まりだと思っています。ちなみに学生全員が、学友会員です。

私の理想を書きたいと思います。

大きな夢は、ひとりひとりが充実した学校生活を過ごし、笑顔でまとまっている学校になったら嬉しいな、ということです。

少し現実的に言うと、サークル内だけでなく、学校全体の1・2年生がもっともっと仲良くなりたいです。4・5月、1年生からは、2年生に対する憧れの気持ちと共に、「2年生こわい」という声が聴こえます。この声は、きっと、「怒られてこわい」のではなく、「知らない年上の先輩だから」なのではないでしょうか。中学や高校では、先輩や後輩の壁があることが常識だから、それは当然だと思います。ですが一方で、2年生も、新しく入学し、関わりのない1年生に対して、「1年生こわい」という声が聴こえます。

私はその現状を知って、どうしたら1年生と関わられるかな？と思い、入学当初挨拶を心がけましたが、相手のことを知らない挨拶だけでもなかなか勇気が必要でした。

1年生のみなさん！実習園が一緒の2年生、仲良くなりたい面白そうな2年生、話してみたい2年生はいませんか？

2年生のみなさん。昨年2月に行われた「学びの成果発表会」の時、もっと早くから先輩と関わってみたかったという声を聴きました。自分自身、そうでし

た。学園祭もありますが、同じ仲間同士、もっと早くから関われたらな、そうしたらもっと学校生活が充実しそうだな、と思いませんか？

私たちは今、自分達で活動できる環境の中にいます。こうしたらもっと良くなるんじゃないか、このままじゃあまりよくないのではないか、と思うことを、思ったままにせず、私たちで創ってみませんか？

今、私は学友会長を自ら望んでやっています。うまくまとめられなかったり、伝えられなかったり行動できなかったり苦戦することも多々ありますが、それは自分の課題だと思っています。そして、時に焦り悩みますが、やりたいことなので苦ではありません。とても楽しいです！

みなさんも興味のあること、好きなことから、学生生活をより良くしていきましょう！！

これから1年、共に活動よろしくお願ひします！



次ページには、「学友会だより」を掲載しています。
これは今後学内でも配布する予定です。

学[😊]友[😊]会[😊]だ[😊]よ[😊]り

第1号
担当・今村

▶▶ 学友会44期を紹介します。

4月23日(水)の昼休みに行われた学友会選挙で、今年の学友会44期メンバーが選ばれました。皆様、投票ありがとうございました！

メンバーの似顔絵は、女子を1年鷲頭有沙様、2年遠山季主君に、描いて頂きました。

- ① あだ名 ② 好きな言葉 ③ 趣味・マイブーム ④ 決意表明

会長 今村 彩香



- ① いまむ
- ② 「らしく」
- ③ とんすけ(バズ)
- ④ 私達らしい学校を創り、ていくために、らしく活動していきます

副会長 井上 和幸



- ① かづっきー
- ② なるほどなまー。
- ③ 筋トレ、PCいじり、僕なりのサポートの仕方、明德を上げていく。
- ④

副会長 豊田 真央



- ① まおまお
- ② オジーイ!
- ③ バレーボール
- ④ みんなで楽しめる学校生活にします!

書記 鈴木 利美



- ① としちゃん、とっぴー
- ② 食べ放題
- ③ 食べること
- ④ 美文字で頑張る

書記 宮本 花梨



- ① かりんちゃん
- ② ありがとう
- ③ バナナスイーツ、食べること
- ④ 字をキレイに書けるようにする!!

会計 新田 雅幸



- ① ま〜くん
- ② やればできる。
- ③ 交流
- ④ 昨年に引続きがこバリます。

会計 尾田 友紀穂



- ① おだち、ゆきん
- ② 努力💪
- ③ TVの番組観覧
- ④ 学生みんなが楽しめる行事を企画する。

会計 瀧口 友貴



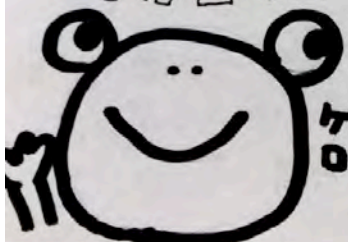
- ① ゆうぎ
- ② smile😊
- ③ ネット集め、ハンドボール
- ④ たっさん色んな行事を作りたい!!!

担当 柴田 大輔先生



- ① しぼしぼ!
- ② 一期一会
- ③ 面白いもの、珍しいものを写真に撮ること。
- ④ いつも楽しいことにチャレンジしましょう!

こんな事考分[😊]正[😊]れ[😊]よ



5月31日(土)

明德附属幼稚園で12:30~16:30(予定) 明德大運動会を学友会で企画しています。体を動かして、2年生で楽しもう!!

今年は8月20日(土)に学園祭があります。今年は去年よりもさらに学生主体の行事になります。委員もまだまだ募集しています。委員が先頭となって、学生みんなで作りたいいきましょう!!

食堂の時計の下に新しく掲示板を購入しました。皆に伝えたい掲示物も多数あるので、ぜひ見てください。学友会室前に意見箱も設置しました。

4・5月活動報告

毎週月曜日と木曜日は昼休みに会議を行っています。(木)放課後自主活動日

月	火	水	木	金	土	日
4/28 学友会 顔合わせ	4/29 ⑤ 第1回 サークル会議	4/30	5/1 学友会会議	5/2	5/3 GW	5/4 GW
5/5 GW	5/6 GW	5/7 ⑤ 学園祭について (学生)講堂 学園祭実行委員募集(1次)5/7~5/14	5/8 学友会会議	5/9	5/10	5/11
5/12 ⑤ 学園祭について 1・2年講堂	5/13	5/14	5/15 ⑤ 学園祭実行 委員顔合わせ	5/16	5/17	5/18
5/19 学園祭有志 募集期間5/19~5/30	5/20	5/21	5/22 学友会会議 「学園祭」	5/23	5/24	5/25
5/26 学園祭実行委員 ミーティング⑤	5/27	5/28	5/29 学友会会議	5/30	5/31 明德 大運動会	6/1

キッズ
クラブ
ダンス
スポーツ
ヨガ

絵本読み聞かせ会
10ネルヨアター
遊形会

やってみたいなを
叶えよう。



お菓子会
料理パター
学校整備
パン作り
その他色々

同じ気持ちの仲間が4人以上いる人は

サークルを作る事が出来るかも!!



田中 葵先生に声をかけてみよう。

1人でやりたいor目標が見つからない人は

8月2日(土)の学園祭有志発表を1つ目の
目標として活動して行きませんか? 行きましょう!!
有志は5月30日(金)までアシスタントカウンターで募集
しています! みんなで楽しい学園祭を創ろう♪
仲間を見つけないorどうすればいいのかわからない人は
学友会に相談してみよう。イベントにしたり、
掲示をして、皆に呼びかけてみよう。



参加しませんか？サークル活動 ～前編～

今年度のサークル活動は例年以上にますます活発で、現在16サークルが活動しています。今月号と来月号にかけて、各サークル長によるサークル紹介をお届けします。少しでも興味を持ったあなた、参加しませんか？



サークル名	サークル長	顧問	活動日時	活動場所
バレーボール	中志瑠奈	鶴田	月・水：19:00～21:00	高校体育館
ソフトボール	森誉太	鶴田	月1, 2：土	おゆみ野南公園 野球場 土気創造の社 野球場
フィットネス	藤森裕一郎	安恒	火～金：授業後～施設まで	リズム室
和太鼓	中橋ありす	金	水：17:00～18:00	リズム室
軽音	田村和希	小久保	水：12:00～20:00 火・木：15:00～20:00	音楽室
吹奏楽	遠山未紗	明石	金：15:00～18:00	音楽室
Meitoku Dance Creation	高橋千耀	田中	火：18:30～20:00	リズム室
バスケットボール	高山勇太	田中	月・水：19:00～21:00	高校体育館
ダンス	前澤祐菜	金	水：18:00～20:00	リズム室
うた☆ダン	五十嵐春奈	柴田	木：17:00～20:00	リズム室
冒険パーク	尾崎莉奈	石井	第4土曜	おゆみ野市内
大工部	大槻洋平	得重	前期：水 後期：火 月1：土 授業後～日没まで	学食前広場
チャリサー	松田勝也	鶴田	計画中	計画中
園芸	山本恵美	安恒	月2回	玄関前花壇等
フットサル	先崎綾太郎	安恒	木：18:00～20:00	千葉フットサルガーデン
バドミントン	松本遥	伊藤	月・水：19:00～21:00	高校体育館



私たち**バレーボールサークル**は、毎週月曜日・水曜日の19時～21時まで千葉明德高校の体育館を借りて活動しています。サークルのメンバーは、数人経験者もいますがほとんどが初心者です。バスケットボールサークルと一緒に活動しているので、バスケとバレー両方やっている人も中にはいます。男女混合で行っていて、笑いがたえない楽しいサークルです。
(2年：中志瑠奈)

現在**ソフトボールサークル**は、月1を目安に学校近くのおゆみ野南公園野球場か、土気にある創造の杜野球場で土曜日に活動しています。経験問わず男女問わず道具の有無問わず、どんな方でも参加できます！

次回の活動は2年生の実習の関係で7月上旬の土曜日、朝9時から13時までの活動を予定しています。費用も掛からないので1年生の参加をお待ちしております！もう少し詳しく話を聞きたい方は、いつでも森までお声をお掛け下さい！(2年：森誉太)





私たち**フィットネスサークル**は授業後にリズム室で活動しています。活動が始まったのは昨年の夏からですが、毎日自分達のペースでトレーニングを続けて来た結果、確実に体が引き締まって来たという実感があります。

生活する上でも、保育をする上でも、身体が資本だと思います。是非私たちと一緒に楽しく体を動かしましょう。（2年：藤森裕一郎）

和太鼓サークルは、もともとあったのですが、昨年は人がおらず継続できない状態にあったのを復活させたサークルです。メンバーは2年生6名のみとなっています。学園祭での発表を目指して練習しています。興味のある方、やってみたい方はぜひ水曜日17時にリズム室へお越し下さい。（2年：中橋ありす）



現在、**軽音サークル**は2年生5人、1年生7人の合計12人で火、水、木曜日の週3日で活動しています。主に学園祭や卒業パーティーなどでの発表に向けて日々練習しています。ほぼ全員が未経験者なので苦労することもあります。楽しみながら練習をしているのでゆっくりではありますが自然と技術が身に付いてきて上達しています。この調子で自分達も聞いている人達も一緒になって楽しめるような演奏ができるように頑張っていきます。（2年：田村和希）

吹奏楽サークルは、2年生19人1年生5人計24人で活動しています！「吹奏楽をやりたい」と声があり楽器を持ちあってサークルを立ち上げることが出来ました。1年生も入部し演奏しやすい環境になりました。今は学園祭に向けて基礎練習や曲練習をしています！大人から子どもまで楽しんでもらえる演奏を心に2年生は最初で最後の演奏になるので一生懸命練習しています。（2年：遠山未紗）



私たち**Meitoku Dance Creation**は、身体を動かすことが大好き、音楽を聞くとついつい踊ってしまう、とにかくダンスがしたい！という仲間が集まったサークルです。サークル名の由来はダンスを自分たちで創りたい、色々なダンスを踊りたいという思いで皆で考えました。今は学園祭で何か楽しいことができれば良いなと考えています。2年生4人、1年生3人、田中先生と仲良く楽しく活動して

いきたいと思えます！まだまだメンバーは募集中です！本当はダンスがしたいと思ってるあなた！一緒にDance Creationしましょう！（2年：高橋千耀）

「あそびの便利帳」を活用していますか？

深谷 ベルタ

「あそびの便利帳」は2012年度の「スタートアップ・カレッジ」から始まった本学独自の入学前教育実践です。「遊び」（とりわけ伝承遊び）は、人をつなげる力が大きく、遊び方のルールさえわかれば、初めて出会った相手でも、一緒に遊んでくれる相手について詳しく知らなくても、遊びが成立し、気兼ねなく関わるすることができます。



「スタートアップ・カレッジ」では、本学への入学を考えている初めて出会った者同士をつなげる手法の一つとして、そして彼らが後に保育者になることを考えて、「遊び」を一つの柱に置いてみることになりました。

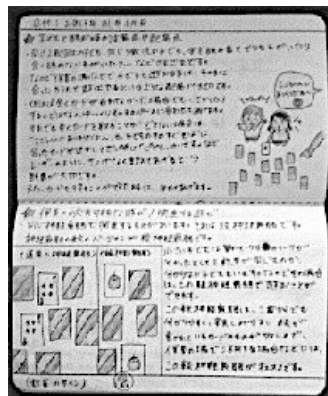
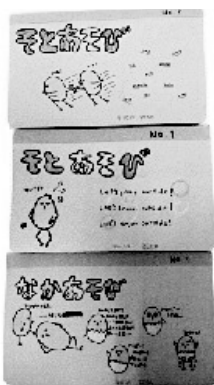
保育者は、いろいろな遊び方を知っている「遊び上手」な人であって欲しいし、具体的な遊びのみならず、子どもにとって「遊び」とはどのような意味を持ち、なぜ大事に思われるのかというところまで理解して欲しいものです。そのためには多方面からの学びが必要になりますが、具体的な遊びの引き出しが空っぽでは話になりません。「小さい時に経験した遊び」を想起する方法もないわけではありません。でも、そこは幼児期特有の健忘症で、その頃の経験は記憶の彼方でなかなか思い出せないものです。とすれば、再体験、追体験して、もう一度“学び直す”という必要性が生じます。

“保育の最先端”では、「遊び」と「学び」を対立項としてくっきりした形で分けるような発想は既ありません。子どもたちの裁量に任せっきりの“自由”/“勝手な遊び”ではなく、保育環境の総合マネージャー（運用責任者）の構成力から、実践者となる保育者の構成力（いつ、何を、なぜ、どこに配置し、実践するのか）という具体的な環境構成と保育過程をはじめとする“活動の編集力”、遊んでいる時の子どもの様子を読み取る能力、更にそれに基づく“誘導性”や“記録力”なども問われるようになりました。単純に資格免許を手に入れるだけでなく、プロ（ライフワーク）を目指し高い専門性を発揮できる保育者を育てたい本学が、「遊びと学び」へコダワリを持つことは当然だろうと思います。しかし一言に「遊び」と言っても多種多様なため、学生達の保育者としての眼差しが育てばと願い、学びのツールとして「遊びの便利帳」を綴ることを提案しました。

「遊びの便利帳」とは、ポケットサイズの小さなノートでスマホ位の大きさです。記録形式（視点）も決まっています。それらの視点に沿って、学生達が本学で出会った様々な遊びを記録していき、少なくとも1年生の終わりに50個、2年生の終わりまでには100個という達成目標も設定されています。スタート点であるスタートアップ・カレッジでは伝承遊びの再確認ですが、入学してからは各授業で経験した遊びを記録し、付け足していきけるようになっていきます。卒業した時点で「この100個の遊びは確実に実施できますよ」と自信をもって主張できるようになってほしいのです。これはいわば「就職へのパスポート」のようなものだと考えています。

形式（視点）は以下。「具体的な遊びへの歴史的視点や文化的視点」は保育者の基礎教養。「遊びの運用面での視点」（必要なモノ、スペース、人数等）は技術的視点。その遊びについて調べた「出典」（文献やネットメディア）は情報源の記録で、後に役に立つはず。「子どもとするなら」という視点は子どもへの配慮（発達的理解）、「保育者としての工夫」は遊びの崩し方としての代替案や発想です。卒業まで遊び100個というのは決して高い目標ではありません。あくまでも“最低基準”だと考えています。

1年生の間は「児童文化」の授業で各学生の綴り方を確認（評価も）しています。2年生になってからは、実習に向けての指導案作りや「保育教職実践演習」という授業で活用できます。学生は実習に直面して、自分が何も出来ない不安に駆られやすいのです。また、就職してから当分は、その場に慣れることと日々の仕事遂行で、両手一杯のアップアップ状態でしょう。自分が既にできることを、この小さいノートを開いて再確認するために、手を抜かずに続けてほしいと思います。（このように言っているかどうか若干迷いますが、保育という仕事をどこまで考えているのかは、このノートを見れば一目瞭然のような気がします。本気はここにも現れる。根気よく積み上げている学生と、資格免許さえあればと考える学生との差が大きいようです。）もちろん、このノートさえあれば万全というわけではありませんし、魔法のツールでもありません。ごくごく小さな学びのツールで、自分で歩み、学ぶ「遊び」の目録ですが、分厚い本一冊位になります。その広がりや学生自身が模索し、覗き、自分で確認し、その背景に広がる世界を見るだけでも、意味が大きいと考えています。遊びは人類共通の資源であり、人間特有の豊かな文化です。その文化にどのようにアクセスしていくのかを考えることも、実に面白い仕事です。



2年生の5月

それぞれの創意工夫 「あそび技能演習」



明徳の2年生向けの授業の一つに、保育者の腕を上げる意味で、1年生科目「あそび基礎演習」と「児童文化」を掛け合わせた授業として、「あそび技能演習」という授業が開講されています。この授業は、昨年度から6月の教育実習準備に向けて全員で準備に取り組むという役割も担うようになりました。一概には言えませんが、それは、諸事情により一人一人で実習準備に望むのが難しいケースも見られるようになったことに対して、本授業で全員で確実に取り組んでみた方が効果的ではないかという予測に基づく解決策でもありました。そして、昨年度は実習から戻ってきた学生たちに対してアンケートも実施し、この取り組みに対する評価も高いことが明らかになりました。（このような形で準備を進めても、実習に行くのはやはり不安なようですが。）そこで、「あそび技能演習」は今年度もこの取り組みを継続することになりました。

今年度の授業のスタートは4月1日で、異例の早さでした。4月末まで2年生全員で全コースを1回ずつ回り、どのコースも少し経験してから希望するコースを履修するという展開になりました。現在開講されている7つのコースはいずれも保育に密接にかかわる授業内容であり、どれをとっても“損しない”はずです。しかし、学生達から見れば、関心や志向があるのも事実です。半期の授業ですので、その最初の5回を全員で巡回すると、自分の課題や興味関心で応じて選べる回数は15回のうちに10回になります。2コマ続きの授業ですが、残りの回数から言えば、決して多いとは言えません。

その限られた回数の中で、学生たちに最大限のものを伝えようと、毎週奮闘している各コースの先生たちによるメッセージを聞いてみましょう。（深谷）





“伝える”を意識した 指導案をつくる

阿部 友理

この授業では、前半は幼稚園実習で行う活動の検討及び指導案作成、後半は音楽劇の創作や表現遊びを行っていきます。学生に質問をしたところ、幼稚園実習で最も苦労するのが指導案作成のようです。苦手な指導案をどうすれば意欲をもって書くことができるかをここ数年模索し、今年度から取り入れたのがKP法：紙芝居（K）プレゼンテーション（P）です。自分の考えを「伝える」を意識してA4サイズの紙（シート）に書いて表現します。一人ひとりの考えを書くこともあれば、グループで検討した内容をまとめることもあり、様々なシーンで活用できます。活動の手順を書くだけの指導案ではなく、保育者（実習生）の思いが指導者（幼稚園教諭）に伝わらなくては、「学校で何を学んできたの？」と助言されても仕方ありません。そうならないためにもシートにどんどん書き込み、意欲をもって指導案を作れるようにしましょう！

つくって動いて感じて遊ぶ

荒松 礼乃



今年度非常勤として「あそび技能」を担当、7年ぶりに明德へ戻ってきました。私のコースでは「手遊び」を出発点に、主に体を使った活動の展開方法について学びます。私の専門は体育（ダンス）。手遊びが体遊びや表現遊びに繋がることを学生に体感してもらい、いろんな体の動かし方がある！体を動かす事は楽しい！と納得してもらいます。例えば最後にじゃんけんがある手遊びなら、そのじゃんけんを体じゃんけんに変える、そうすると一気に運動量が上がり同時にテンションもアップ。忍者の表現遊びで敵から逃れるべく「木に変身」した後、他に何に変身したらもっと面白くなるか考える。時に仲間とアイデアを交換し合うとさらに新たな気づきが！初めは照れている学生が楽しそうに動き、レポートに今日の活動は面白かった、子どもとも遊びたいと書いてくれると嬉しい。素材は何でもOK、展開次第で無限の世界へと広がります。

運動あそび

益子 美土里



乳幼児期における運動はその子どもたちの心と体を育てることにつながります。

したがって、この授業ではいかにいろいろな運動を、あそびを通して体験し体で感じる事が、子どもたちのその後の運動能力や体力に大きな影響を与えるという事を理解し、どのように展開させていけばよいかを授業の中で学生たちに伝えていきたいと思っています。

私は現在、千葉明德短期大学の非常勤講師の他、幼稚園や保育園等でキッドビクスのインストラクターもしています。そこで実際にやっている内容や子どもたちの様子を伝えながら、学生の皆さんが現場に出た時に役に立つような内容を授業で取り上げています。そして、幼稚園実習に行く前に実際に子どもたちの前に立つ機会をつくり、子どもたちに指導する体験をしてもらいます。毎年思いますが、子どもたちの前に立つと普段見えない一面が見え、頼もしく思える瞬間があります。今年はどんな一面が見られるか...楽しみです。

言葉とお話で遊ぼう

高森 智子



もしも言葉がなかったら—そう考えたことはありませんか？ 私たちが情報や気持ちを伝えあったり、何か考えたりする際には、言葉を欠かすことができません。そして、その「言葉」は、必ずしも音声として発せられるものばかりでなく、身体を使って表現されるものもあります。

この授業では、そうした「言葉」や「お話」を用いた遊びについて学んでいます。コース別に分かれた後、実習前は言葉やお話を用いた簡単なゲームを、実習後は詩の朗読や無言劇を行う予定です。時には頭を使って適切な言葉を考え、時には体を使って気持ちや物語を伝えるこの授業では、集中力、理解力、想像力、そしてひらめきとコミュニケーション能力が必須です。

このコースを選択した学生もそうでない学生も、時には詩の本を手にとってみませんか？ そして、お気に入りの一篇を見つけたら、そっと声に出して読んでみましょう。日本語の優しい響きに、心が落ち着くかもしれませんよ。

うたとピアノ

田島 美帆



この授業では、「保育現場に即した音楽活動を展開する力を習得すること」を目標に、「うたとピアノ」を使った活動を行っています。

「ピアノ」のほうでは、1台のグランドピアノを学生全員でぐるっと囲み、簡単なコードを使った伴奏形を、リレー形式で繰り返し繰り返し弾いています。また、覚えた伴奏形は、実際にどういう活動に使えるかということも試しています。

「うた」のほうでは、簡単なリズムパターンをもとに、メロディーを考えてもらい、オリジナルの「子どもの歌」をつくっているところです。保育現場では、子どものうたのレパートリーがたくさんあることも大切ですが、目の前にいる子どものつぶやきや遊びの中から、その場で鼻歌をうたうようにうたをつくる、ということがあっていいのではないかと思います。

この授業を履修している学生の音楽の経験年数は様々ですが、経験に関わらず、まずは自分自身がピアノやうたに触れることが楽しい！と思ってもらえるように、とにかくたくさん試す時間を設けています。皆さん、子ども以上に楽しむことに長けているので、毎回、笑いの絶えない授業です。

お話を楽しもう

山田 典子



あそび技能演習“お話を楽しもう”では、絵本、紙芝居、お話などをお互いに読み聞かせたり、語ったりする中で、その心地よさを体験し、自分の読み方や語り方を学びます。現段階ではまだ絵本や紙芝居や手遊びの演習ですが、後半はいよいよ最大の難関のお話の語りが入ります。少し苦しい課題ですが、それは保育者としての一つの財産となるのです。

さて、読み聞かせも、語りもその人の人間性、感性を表すものだと言われています。保育現場での演習も予定していますので失敗を恐れず、おおいに挑戦して、人間性・完成を磨くとともに自分自身の財産を増やして欲しいと願っています。

手作り教材および おもちゃ制作に取り組んでみよう

深谷 ベルタ



私が担当する「制作中心」のコースでは、保育者を目指す学生25名が仕事の準備に取り組んでいるようで、例年と異なり、今年度は皆揃ってパネルシアターを作ることにしました。10回は少ないけれど、努力すれば数セットの作品を完成させることも夢ではありません。必死で作っています。また、保育現場で既によく知られているものではなく、あまり出回っていないものや学生自身の独自の発想で作られるものもよく見られます。私自身もそのような作品を奨励しています。折角時間や手間をかけて作るのであれば、単純な“コピペ”のような真似ではなく、本人らしい工夫や遊びやその人らしい表現が見られた方が望ましいと思っています。



！新連載！

学生ページ



明德の「今」を学生たちが発信してくページが、今年度新連載の「学生ページ」です。今月は、「頑張っている人を紹介したい！」という学友会が、2人の学生を紹介します。また、2年生の杉本渉くんが撮影した「僕たちの今！」の写真を紹介します。



Recommended
people from
CAKUYUKAI!

今回は学友会から、2年生の安西さんと生貝さんを紹介합니다。彼女たちは新入生を迎える日のため、毎日のように練習をしていました。放課後の学内に二人のメロディが響き渡り、それはとても心地のいいものでした。

また、入学式をきっかけに、現在でも連弾を続けているのです。私はそれに感動し、ぜひ彼女たちを紹介したいと考えました。一つの体験をきっかけに次に繋がっていくこと、とても素敵ですよ！



「ご入学おめでとうございます」という言葉で先輩方に迎えられる一年前。当時、先輩方の弾いてくださった連弾は、私たち1年生に深い感銘を与えたと同時に、「自分もこんな風になりたい」と志した瞬間でもありました。その時には、まさか入学式という舞台上で自分たちが連弾を弾く立場になるとは思ってもいませんでした。

連弾を弾くことが決まってからは、実習が始まり、2人で合わせる時間もなく、不安でいっぱいでした。しかし、2人で少しずつ予定を合わせて練習をしていくうちに、徐々に2人の音が合い始め、曲を作り上げていく達成感を味わうことができました。そして、入学式当日。誰よりも早く会場入りをして練習をしましたが、本番では緊張とプレッシャーから、思うように演奏することができませんでした。悔しい思いもありますが、今まで味わったことのない良い経験ができました。

今回の経験は、大きな自信にも繋がりました。私たちは、この連弾発表を通じて、何かを最後までやり遂げることの大切さや、最初から諦めるのではなく、挑戦することで得られるものがたくさんあることを学びました。この学びと自信を活かし、今後の学校生活や実習でも積極的にチャレンジしていきたいです。また機会があれば、新しい連弾の曲に挑戦をして発表したいです。

安西 優奈
生貝 友香里





僕たちの日常...、サークル帰りに2年生の自宅まで今日のサークルのことを話したり、1年生と学校生活について話したり...学校以外にも、1、2年生の交流の場をつくっています。

また、2年生は来月の実習に向けて、その準備にがんばっています...それが僕たちの今！
(2年：杉本渉)

PROFILE



教員名

いとう えりこ
伊藤 恵里子

担当科目

教育実習II・キャリアデザイン・保育方法演習等

メッセージ

他にも皆さんにおすすめの本がたくさんあります。本は、自分の身の周りで起きている物事を、マエから、ウシロから、ヨコから、ナナメから捉えるためのヒントを与えてくれるはずです。これからの梅雨の季節、しとしと雨の音を聴きながら、読書にいそしんではいかがですか。さあ、図書館の「教員推薦図書コーナー」へGO！

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

第2回目となる今回は、伊藤先生からの紹介です。

自分で考えること、皆で話し合うこと

今月の月歩学歩のテーマは「自分たちでつくる明德」ですが、このテーマを聞いたとき、私は真先に『僕のお父さんは東電の社員です 小中学生たちの白熱議論！3・11と働くことの意味』を紹介したいと思いました。この本は、毎日小学生新聞において、原発事故後の東京電力の無責任な体質を指摘した記事に対し、小学6年生のゆうだい君が手紙で意見を寄せたことが発端となっています。そしてゆうだい君の問い掛けに対し、全国の子どもたちがさまざまな意見を寄せているのですが、そのどれもが原発問題に真摯に向き合い、真剣に言葉を発しているように思えます。子どもたちだって、私たちと同じ今の時代のこの国に生きる人です。その子どもたちからの声は、私たち大人への「一人ひとりが真剣に考えよう」という呼び掛けに聴こえてきました。子どもたちの意見はさまざまで、どれが正解、不正解というものではありません。この本は、“答え”を探すためではなく、ここから自分自身が考えるためのものでしょう。

何かを(明德という学校を、または社会を)「自分たちでつくる」には、世間に迎合することなく、まずは自律的に思考することが必要だと思います。そして自らが考えた後は、独りよがりにならず、皆で話し合うことが大切です。ゆうだい君は手紙の最後でこう述べています、「みんなで話し合うことが大切だ」と。

原発問題のみならず、今この社会ではさまざまなことが起きています。それを当たり前として捉える前に、少し不思議がってみましょう。不思議に思う心があれば、それを調べ、考えるようになります。考えるためのヒントとして、本はとてもいい材料なのです。

* 「原子力発電」を当たり前として捉える前に...
『僕のお父さんは東電の社員です 小中学生たちの白熱議論！3・11と働くことの意味』
(森達也, 毎日小学生新聞編, 2011)

* 「消費税」を当たり前として捉える前に...
『ちゃんとわかる消費税』(斎藤貴男, 河出書房新社, 2014)

「千葉明德短期大学附属幼稚園」



明德の「総合保育創造組織」の幼稚園・保育園を紹介します。
初回は短大のすぐ隣にある幼稚園を片川智子先生が紹介します。

短大と同じ敷地内、2号館の隣には「千葉明德短期大学附属幼稚園」があります。来校の際ご覧になったことがある方も多いのではないのでしょうか。本学附属の幼稚園で、毎年多くの学生が様々な機会に関わり、今年度は1年生の通年実習で25名、2年生の3週間実習では5名がお世話になります。その他、授業や授業以外の機会にも多くの学生が伺い、夕涼み会や運動会などのお手伝いで参加したりもしています。

幼稚園をちょっと覗いてみると、広い園庭、畑、森のあちらこちらで思いおもいに遊んでいる子どもたちの姿があります。朝登園して支度が済むとすぐに、ほとんどの子どもが外へ飛び出します。または室内で前日の続きの遊びに夢中になる子どももいます。驚かれるかもしれませんが、こうして子どもが自分から遊びを選び、考えたり試したりしながら育っていくことが大切にされています。

学校にいながら、生き生きと遊ぶ子どもたちの様子を身近に感じながら学べる環境は最高です！先述の附属幼稚園で実習させていただいている1年生たちがその振り返りの授業をしている教室は、実は3歳児の遊ぶ園庭のすぐ上なのです。もちろん、授業中も子どもたちの声が聞こえてきます。先日は、授業の合間にテラスに出て子どもたちが遊ぶ様子を眺めて喜ぶ学生に姿がありました。昨年は、附属幼稚園に実習で出会った子どもたちともっと関わりたいという思いから、毎朝幼稚園の正門で挨拶を始めた学生もいました。また、幼稚園の先生からは、いつでも遊びに来ていいよといただいています。とてもありがたいことです。

今、短大と附属幼稚園、また系列の保育の現場は、共に「総合保育創造組織」として連携し合い、研究、研修、養成に取り組んでいます。「めいトーク保育講座」という保育者対象の講座では、昨年度から附属幼稚園と協同して実施しています。附属幼稚園と短大とが、実質的な連携を深め、幼稚園の実践と短大の養成教育が互いに充実し、学生の学びにも繋がっていただけると考えています。

* 「めいトーク保育講座」については同封のチラシをご参照下さい。

卒業生の今

明德を卒業した先輩たちは、今、どのように働いているのでしょうか。月歩学歩では、さまざまな現場で活躍する先輩たちからの今をお届けします。初回は、短大内にある「育ちあいのひろば たいむ」で働く卒業生の2人です。

◎明德を卒業後、たいむで働くまでの経緯をおしえてください。

本田：卒業後は私立保育園で9年間働いていましたが、主人の転勤をきっかけに退職し、転勤先に明德が近かったこともあり、縁あってここで働くことになりました。

中野：はじめは明德短大の附属幼稚園に6年間勤め、その後明德浜野駅保育園で2年間働きました。その後、私も縁あって明德短大でアシスタントの仕事をし、産休育休を経てたいむのスタッフになりました。

◎仕事のやりがいや楽しさ、難しさはどのようなことですか。

本田：保育園では保護者と関わるのは保護者会くらいでしたが、ここでは子どもと保護者と一緒に遊ぶことができます。そのような中で、子どもの成長をその子の保護者や周りの人たちと一緒に喜ぶとき、楽しいと感じます。

中野：ここは基本的に親子が集う場所なので、自分の考えを保護者にどう伝えたらいいかが難しいと感じます。やりがいを感じることは...保育には正解がないので、保護者同士お互いの経験を伝え合って、私も同じ年齢の子を育てているのでそれも伝えて、それをお互いにやってみて子どもにいい効果が表れたときによかったなと思えます。

◎最後に、今後の夢や展望を聞かせてください。

本田：年間を通して子どもを見ていける、保育園の仕事をまたやってみたい気持ちがあります。

中野：幼稚園の仕事で味わった達成感をまた...という気持ちがあります。思い返すと、子どもを産む前は保護者にひどいことを言っていたかもしれません。子育ての経験やここでの経験を生かし、また幼稚園でやってみたいとも思っています。



本田 美乃

32回生

箆ゼミ出身。「わくわく体験研修」で隠岐に行ったことが一番の思い出。そこで出会った人たちとは今でもつながりがあります。



中野 望

33回生

好きだった科目は保育内容演習。

「わくわく体験研修」では奄美大島に行きました。なんと学友会会長でした！

【育ちあいのひろば「たいむ」について】

短大内にあるこのひろば、いわゆる子育て支援のような「支援する側・される側」という役割ではなく、「子ども、保護者やスタッフ、学生、教員、地域まで、だれもが対等に育ちあう関係を創り、育ちあう場を創る」という活動を目指しています。スタッフから活動を提案するのではなく、保護者が主体的に活動し、スタッフはそれを支えています。5月現在は「交換会」という子ども服の交換を行っていますが、これも保護者同士の会話から生まれました。

! hot news !

new movements of this month in meitoku
! 今月の明德速報 !

富山県利賀村に行ってきました!

2年：松本遙+高山勇太+中志瑠奈+松田勝也+森誉太

私たちは5月2日夕方～5月6日まで、春祭りのお手伝いをしに富山県利賀村に行ってきました。この利賀村は、1年生の時の「基礎ゼミ」という授業で、由田先生にご紹介して頂いて、お世話になったところです。



2日の夜利賀に着き、豆谷（まめだん）地区の堀田民宿さんへ挨拶に行きました。そこでは、明日に備え獅子舞の踊りの稽古をしていましたが、初めて見る獅子や舞う姿に魅入っていました。夕食時に豆谷の方々から村の話をたくさん聞くうちに、来たばかりなのに昔からいたかのような感覚になりました。

3日の朝は祭りの支度をし、その後豆谷の方々が着ていたハッピを一緒に着て旗持ちをしました。始めに宮で獅子を舞い、その後は笛を吹き、太鼓を叩きながら各家を回りました。昔は回った各家でお酒やご飯を頂いていたそうです。祭り後民宿に戻った若連中（祭りに参加している人）の方と一緒に夕飯を頂きました。



4日、午前中はそば粉100%のそばを自分たちで打つという体験をしました。この日利賀村に来て初めて由田先生に会いました。午後は豆谷から離れ、上村・下村の春祭りを見に行き、下村では実際に祭りの衣装を着て獅子の中に入って舞いました。最初は動き方もぎこちなかったのですが、回数を重ね村の方々と話していくうちに緊張が解け、楽しくなったのを覚えています。

待っている時の雰囲気や話など、ごく普通の会話でありながら、こうも一体感が生まれるのはなぜだろうと思いました。祭り後は食事を頂きながら、これからの事や今の事をたくさん話し、また来ることを約束して別れました。



5日には、上田さんというお宅にお世話になり、山に入り山菜を採ったり、川に入り渡ろうとしたり、どの山菜が食べられるのか、どれを採って調理するとよいのかなど学びました。食事では、採った山菜をてんぷらや胡麻和えなどにして皆で食卓を囲み頂きました。今の私たちの中で、これが当たり前だと言える人はどのぐらいいるのでしょうか。



5日の夜、夜行バスで帰る私たちは、今まで利賀村に住んでいたかのような感覚になっていました。帰っている間、また早く来たいね、次はいつ来ようかという会話が飛び交いました。なぜこういう感情になったのでしょうか。私は、相手との距離が近かったことが一つなのではないかと思います。初めて来た私たちでも大いに歓迎してくれて、様々な話をして頂きました。



「頑張ることは大切だが頑張りすぎなくていい、自分は今何が楽しいのか、何がしたいか、そこからゆっくり進めばいいんだよ。」この言葉が忘れられません。このような村の人たちに出会えたことは、自分の夢を見つめなおし、頑張ろうと思えた体験でした。ただその場に居るだけではなく、自分から何かしてみようとする思い、そして他者からのきっかけがとても大切なことだと感じました。今後の生活に活かしたい、他の人にも体験してほしい、と思える体験でした。(松本遥)

！教員のhot news！

保育学会に参加・発表してきました！



日々学んでいるのは学生だけではなくありません。私たち教員は、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学で開催された「日本保育学会 第67回大会」に参加・発表してきました。

全国の研究者や保育者の研究・実践にふれ、刺激を受け、それぞれ、これを学生たちに還元したいと考えています。ちなみに明德の教員約半数にあたる8人が保育学会に参加、6人が発表しました。

発表タイトル	発表者
研究者の「表現」に関する関心をデータから考える	深谷ベルタ
実習間のつながりを意識した指導の試みとその効果に関する一考察	石井章仁 小久保圭一郎
新任保育者の早期離職に関わる要因	伊藤恵里子
学生たちの忌避する語り ～昔話の残酷性をめぐって～	高森智子
保育者養成における学生のダンスに対する認識について	田中葵



MEITOKU SNAP



青葉若葉の芽吹くさわやかなこの季節。外でのランチをはじめ、隙あらば外で遊ぶ姿から、学生たちも新鮮な緑の香りを全身で受け止めながら過ごしていることがうかがえます。そして、2年生は6月の実習に向けていたるところで準備に勤めています... 風がみんなを後押ししてくれますように！

明徳の6月

6日 (金)

・教育実習Ⅰ (1年生)

9日 (月) ~27日 (金)

・教育実習Ⅱ (2年生)

21日 (土)

・オープンキャンパス

・スターボックスお話しライブ

26日 (木)

・保育実践研究会

27日 (金)

・献花式

28日 (土)

・めいトーク保育講座

・オープンキャンパス

・オープンスペース (たいむ)

編集後記

今月号のテーマを「自分たちでつくる明徳」としたのは、そのような思いと責任感を持って日々学生たちが活動している姿を見ていたからでした。このテーマを伝えてはいなかったのに、選挙管理委員長の森くんはこう述べています。「明徳は学生が創っていく場所である」。ひとりひとりが学校全体のことを考えながら話し合い、その中でお互いを尊重しながらも意見を交わし、より充実した明徳をみんなで作っていかこうとする。そんな姿が学生たちから見られます。このような思いを持った学生たちが、「明日も明徳に行くの楽しみ！」と思える学校を、教員の私たちもつくっていきたくて、そのためにも、みんなが持っている力を発揮できるようにしていきたい、と学生の声を聴きながら改めて強く感じているのでした。(田中)

★INFORMATION★

明徳HPの「めいたんブログ」でも、明徳の「今」を日々発信しています。ぜひご覧下さい。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明徳短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

伊藤 恵里子

高森 智子



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。